

〔銅 水 和 剤〕

農林水産省登録 第20774号

性 状：青色水和性粉末 45 μ m以下

毒 性：普通物

危 険 物：—

有効年限：5 年

包 装：500 g × 20 袋、1 kg × 20 袋

ボ ル ド ー

有効成分：塩基性塩化銅…84.1% (銅として…50.0%)



こちらのバーコードをスマートフォン等で読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の新しい情報がご覧になれます。また、詳しい読み取り方・最新情報については11頁をご覧ください。

〔適用と使用方法〕

作物名	適用病害名	希釈倍数	107-ℓ当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*	
稲	墨黒穂病・稲こうじ病	2000倍	60~150ℓ	出穂10日前	—	
ばれいしょ	疫病	400~800倍	100~300ℓ	—		
てんさい	褐斑病					
かんきつ	そうか病・黒点病	1000~2000倍	200~700ℓ			
	かいよう病					
トマト	疫病・斑点病・葉かび病	500倍	100~300ℓ			
ミニトマト						
はっか	さび病	500~1000倍	200~400ℓ	摘採14日前		
茶	炭疽病・もち病・網もち病					
		赤焼病				
ホップ	べと病	1000倍	100~700ℓ	—		
きゅうり	斑点細菌病	500倍	100~300ℓ			
たまねぎ	白色疫病					
レタス	斑点細菌病・腐敗病	500~1000倍	100~300ℓ			
非結球レタス						
メロン	斑点細菌病	500~600倍	200~700ℓ			休眠期~蕾出現前
いんげんまめ	かさ枯病					
キウイフルーツ	花腐細菌病	500倍	100~300ℓ			根株養成期
	かいよう病					
うど	黒斑病	100~500ℓ	収穫後			
アスパラガス	茎枯病					
キャベツ	黒腐病・黒斑細菌病	500~1000倍	100~300ℓ	—		
野菜類	軟腐病 べと病					
かんしょ	斑点病	500倍	200~700ℓ	果実肥大期		
くり	実炭疽病					
とうがん	果実汚斑細菌病	800倍	100~300ℓ	—		
ひまわり	空洞病	500倍				
ひまわり (種子)						
樹木類	斑点症 (シュードサーコスボラ菌)	800倍	200~700ℓ	発病初期		

使用方法：散布



効果・薬害等の注意

●核果類には薬害を生じるおそれがあるので付近にある場合にはかからないように注意して

散布する。

- かんきつに散布する場合は、葉害（スターメラノーズ）の発生を防止するために炭酸カルシウム水和剤（クレフノンなど）を加用（200倍）する。特に果実の着生時期の散布では厳守する。
- くりに散布する場合には、葉害の発生を防止するために炭酸カルシウム剤（クレフノンなど）を加用（100倍）する。
- 雑柑類、特にワシントンネブルなどに対しては葉害を生じるおそれがあるので、高濃度（1000倍）液の散布はさける。
- 本剤は無機の銅剤であるため、きゅうり、メロン、キャベツ、はくさいに対して葉害を生じるおそれがあるので、下記の事項に十分注意する。
 - 幼苗期は特に発生しやすいので、中期以降の散布にする。
 - 高温時の散布は症状が激しくなることがあるのでさける。
 - 連続散布すると葉の周辺が黄化したり硬化したりすることがあるので過度の連用をさける。
 - 炭酸カルシウム剤の所定量の添加は、葉害軽減に有効であるが、収穫間際には収穫物に汚れを生じるので留意する。
- レタス、非結球レタスに使用する場合は葉害を生じることがあるので炭酸カルシウム剤を加用する。特に幼苗期や高温散布は葉害を生じやすいのでさける。なお、収穫間際の散布では収穫物に汚れを生じる場合があるので留意する。
- ほうれんそうに使用する場合、収穫間際の散布は収穫物に汚れを生じるおそれがあるので留意する。
- 本剤をキウイフルーツに使用する場合、新梢が10cm以上に伸長したのちの散布は葉害を生じるので、使用時期を厳守する。
- キャベツに使用する場合は結球開始期以降の散布をさける。
- アブラナ科葉菜類（キャベツを除く）に対しては葉害を生じるおそれがあるので、高濃度（500倍）液の散布はさける。
- アスパラガスに使用する場合は、植物体が軟弱な時は炭酸カルシウム剤を加用する。
- 稲に使用する場合は葉害を生じやすく、特に出穂期以降は生じやすいので、出穂10日前以降の使用はさける。なお、散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしない。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意

- 通常の使用方法では毒性は低いですが、誤飲誤食などのないよう注意する。
万一中毒を感じた場合、あるいは誤って飲み込んだ場合には、多量の水を飲ませるなどして胃の中のを吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当を受ける。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋などをして散布液を吸い込んだり、多量に浴びたりしないよう注意し、作業後は顔、手足など皮ふの露出部を石けんでよく洗い、うがいをする。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しない。
- 水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 散布後は水管理に注意する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、

(2019年5月16日現在の内容) 住友化学の農業支援サイト:i-農力 <https://www.i-nouryoku.com/>

河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。

〔品目特性〕

- 作用機作は銅イオンの働きにより、病原菌の胞子発芽、菌糸の伸長を阻害すると考えられています。
- 予防的な散布で効果があります。(保護殺菌剤)